

市長の ふれあい訪問

●今回の訪問先●

ドナルド・グラス

公民館で開催された「フォークソング教室」の修了者が、いくつかの音楽バンドを結成。その中でアメリカのカントリー音楽を主に演奏する有志が集まり、平成2年から活動している「ドナルド・グラス」のメンバーを岡村市長が訪問。演奏活動の内容などについて、聞きました。



市長 みなさんこんにちは。月日が経つのは本当に早いもので、今年もいよいよ師走を迎えました。今月の市長のふれあい訪問は、市内で活躍する音楽バンド「ドナルド・グラス」のみなさんです。はじめに代表の井上さんにお聞きしますが、「ドナルド・グラス」は、どのようなジャンルのバンドなのですか。

井上 アメリカのカントリー音楽の一つにブルーグラス音楽があり、それを基本に演奏しています。

市長 ブルーグラス音楽とは、具体的にどのような楽器を使って演奏するのですか。

増田(晴) 基本的には、五弦バンジョー、バイオリン、マンドリン、ギター、コントラバスの5つの弦楽器で演奏します。

市長 結成してどれくらいになるのですか。

大野 昭和51年に公民館で開催された、フォークソング教室の修了者でバンドを結成しました。「ドナルド・グラス」として再



結成したのは、平成2年です。**市長** バンド名の由来はなんですか。

井上 昭和51年当時、市の文化祭に参加しようということで、バンド名を考えていたのですが、出演するからには、怒鳴る(ドナル)くらいに大きな声で歌ってアピールしようと「怒鳴るぞー」から「ドナルド・フォークソングクラブ」と命名しました。その後、現在の「ドナルド・グラス」になりました。

市長 どんな所で活動されているのですか。

瀬崎 ボランティア見本市や川口国際文化交流フェスティバルなどにボランティアで参加したり、福祉団体の催しに協力しています。

市長 以前、ブルーグラス音楽の本場、アメリカから来日した「クリス・シャープ・バンド」

と競演したこともありましたよね。本場の音楽に接して交流できた時の感想は。

増田(陽) 英語は話せませんが、音や楽器をとおしての交流ができたので、音楽に言葉はいらないなど、改めて感じました。

市長 お互いに音楽で通じ合えるということはずっと素晴らしいことですね。昨年川口国際文化交流フェスティバルに、アメリカから3つの高校生バンドをお呼びして、共演されたと聞きましたが。

増田(晴) はい、ケンタッキー州やテネシー州の高校生バンドと共演しました。また、テネシー州で行われた音楽祭に参加したこともあります。

市長 みなさんの活動があったからこそ、川口国際文化交流フェスティバルが、音楽の普及・発展をめざす組織、国際ブルーグラス音楽協会(IBM A)から、年間最優秀イベントの大賞候補にノミネートされたのですね。

増田(晴) 残念ながら、大賞には選ばれませんでした。アメリカの2つのブルーグラス音楽フェスティバルと並んで、川口市で開催されるフェスティバルがノミネートされたことは、大変光栄に思っています。

市長 最後に、今後の目標や抱負などがありましたらお聞かせください。

井上 平成16年に、100回目の演奏会を達成できました。今後は、200回を目標に頑張りたいと思っています。

市長 アマチュアバンドの輪がどんどん広がっていくことは、市民の文化性を高めることにもつながりますので、200回目のボランティア演奏会をめざして、これからも頑張ってください。今日はありがとうございました。

